平成３０年度 北海道小学校長会
第４回理事研修会
道特協活動報告

2018.12. 17

本協会は昭和 50 年に設立され、今年で 43 年目を迎える。ご存じのとおり、特殊教育から特別支援教育に変わったのが平成 19 年であるので、特別支援教育に変わってから 12 年目を迎えた。

少子化による道内の小中学校の統廃合が進んでいる中、道内の小中学校の約８割に当たる 1400 校が本協会に加盟している。この数字は減っていない。おそらく今後も、現状維持か右肩上がりに増えていくだろう。

５ブロックで 25 地区に分かれて活動している。「一人一人の教育的ニーズに応え、豊かに生きる力を育む特別支援教育の推進と充実」を研究主題に掲げて、全道の校長先生の学校経営の充実に努めている。また、職能の向上のための研鑽、会員相互の連携、関係諸機関並びに関係諸団体、特に、中学校、高等学校、特別支援学校、そして、道教委はもちろん、北海道立特別支援教育センターとも連携を深めて活動している。

５月の定期総会研修会では、北海道立特別支援教育センターの小原所長にご講演をいただいた。また、８月の下旬には、北海道立特別支援教育センターの教育課長、教育室長を講師に招いて、研修活動を行った。

11 月１～２日には、室蘭市において，全道経営研究室蘭大会 を開催し、道教委の上林教育指導監にもご講演を行っていただいた。

年明けの３月には、全道副会長会と研修会を行って、今年度の活動が終了となる。

全国との関係については、今年度は全特協の香川大会に、道特協会員から 12 名が参加している。

現在、道特協で調査部を中心に調査活動を行っている。12 月末集計

の予定である。2月末もしくは3月初旬に、その結果を皆様に、目に見える形で公表する予定なのでご覧いただきたい。また、年に2回の会報誌、年3回の「道特協だより」で活動の様子等の報告が掲載されている。お手もとに届いた際には一読をお願いしたい。

成果と課題についてである。

11月1～2日に実施した全道経営研究大室蘭大会を行った。胆振地区の地震災害の関係で開催を心配した。大会では、四つの提言をいただいているが、そのひとつが、安平町の校長の提言であった。提言の準備ができるかどうか心配したが、予定通りに発表をいただき感謝をしている。当日、参加できない会員も出てが、大会参加者は約190名となった。道内各地から参集し、情報交流を含めた研修を深めることができたことは大きな成果である。

移行期に入った今回の新学習指導要領は、障がい者の権利に関する条約の批准後における初めての改訂となる。その理念が、今回の改訂に色濃く反映されている。この点の理解の浸透が、まだまだ課題である。今後も理解を更に深めていく必要がある。そのためにも、道特協の大会や研修会に、参加者が少しでも増えるように皆様のご協力をお願いしたい。

来年度の全道経営研究大会は、来年の11月初旬に開催のオホーツク・北見大会となる。再来年度は、全特協の全国大会が函館で開催される。会場は函館市民会館で行う。期日は、例年8月に行われているが、この年は東京でオリンピックが開催されるため、この時期、東京の校長先生方はオリンピックに協力をしている。 また、講演や助言を依頼する文科省の調査官からも、8月は避けてほしいという要望が来ている。それを踏まえて、11月初旬に全国大会開催を考えている。理事の皆様にもご承知いただきたい。開催時期が近づいたら、改めてお知らせをするので、ご支援をよろしくお願いしたい。